

窓から覗くはあの日
の私

あらすじ

境美代子は子宮がんを患い全摘出していた。

松平麗子は未婚の学生ながら妊娠したが父親には逃げられていた。

娘の麗子の妊娠を喜んでいなかった松平恭子は美代子の境遇を知り、養子にどうかと打診する。

境夫婦は産生を引き取り育て始める。

麗子は寂しさを感じながらも看護師の道を目指して努力を続けた。

そんな中、境想太が事故死してしまう。喪失感に襲われながらも、一人で産生を育てる覚悟を決める美代子。

一方、麗子は最近生理が重く辛いことを悩んでいた。

心配した家政婦の若林枝里子に勧められるまま受診すると子宮内膜症の診断。不妊の恐れもあると言われてしまう。

麗子の病気を聞いた恭子は、もう子供

が作れないのなら、と竜生を返してもら
うことを提案する。

恭子の自分勝手な発言に怒りを覚える
麗子だったが竜生と暮らせる生活を期待
してしまふ。

自分では竜生に満足な暮らしをさせて
あげられないと悩んでいた美代子は、悩
みながら恭子からの申し出を受け入れる。
竜生を引き渡す日。

美代子は寂しさを堪えて竜生を置いて
松平の家を出ようとする。

しかし竜生本人は美代子を求めた。
美代子も竜生を手放せないと自覚する。
互いを強く求めあう美代子と竜生を見
て、麗子は自分が間に入れないと知った。
麗子は、将来は松平家の後を継いでも
らうことを条件に、美代子と竜生を離さ
ないことを決めた。

母親の指示を無視した麗子は、彼女と
戦うことを決心したのだ。

人物

境美代子 (25)(26)(28) シングルマザー

松平麗子 (21)(24) 社長令嬢の看護師

境竜生 (0)(3) 美代子の養子・麗子の実子

若林枝里子 (45)(48) 松平家の家政婦

境想太 (27)(28) 美代子の夫

松平恭子 (46)(49) 麗子の実母

松平吉宗 (51)(54) 麗子の実父

大崎淳美 (48)(51) 美代子の実母。石川県民。

高野彩菜 (22) 麗子のクラスメート

店長 (37)(39) 美代子のパート先の店長

医師

看護学生

保育士

○ 境家・リビング

壁や棚に写真が沢山飾ってある。
結婚式の写真、旅行に行った写真。
病室の写真。病院着の境美代子(25)
の隣で境想太(27)が微笑んでいる。
美代子、鼻歌を歌いながら掃除機
をかけている。
掃除機がテーブルに当たって上の
チラシがたくさん床に落ちる。

美代子「あーあ」

美代子、書類を拾い集めてテーブ
ルに戻す。
一番上には「養子縁組」のチラシ。
美代子、掃除を続ける。

○ 大学病院・全景

○ 同・ロビー

美代子が境と入ってくる。
美代子、お腹が大きい松平麗子(21)

を見かける。

美代子「あら：松平さん？」

麗子、立ち止まって振り返る。

美代子「やっぱりそうだ。松平さんです

よね。前に実習でここにいらしてまし

たよね」

麗子「は、はい」

美代子「境です。境美代子。この婦人科で以前お世話になってた」

麗子、少し考える。

麗子「あ：ああ、境さん！新婚の！」

美代子「もう新婚じゃないですけど」

麗子「もうお元気なんですよね？」

美代子「ええ、おかげさまで。そろそろ

通院も終わりそう」

麗子「良かった」

美代子「それより：今何か月です？おめ

でとうございます」

麗子、愛想笑いをする。

麗子「もう8ヶ月くらい過ぎまして」

美代子「そう：楽しみでしょう？」

麗子「ええ：まあ」

奥から松平恭子(46)が呼ぶ。

恭子「麗子。行きますよ」

麗子「あ、はい」

恭子、美代子に気付き会釈する。

美代子、会釈を返す。

麗子、恭子とエレベーターに乗り

込んでいく。

境「俺達も行くぞ」

美代子「ええ」

美代子、麗子が乗っていたエレ

ベーターを見つめる。

美代子「なんだか嬉しそうじゃなかった

わね」

○同・エレベーター

麗子と恭子が乗っている。

恭子「さっきの方は？」

麗子「実習の時に患者さんだった方」

恭子「そう。何のご病気だったのかしら。

お元気そうに見えたけど」

麗子「子宮がんだって聞いてるわ。摘出

手術されたとか」

恭子「あら：そう：」

麗子、恭子をチラリと見る。

お腹を摩る。

○同・婦人科待合室

美代子、受付で事務員からファイルを受け取る。

事務員「お支払いは1階でお願いいたします」

美代子「どうも」

恭子がキョロキョロしながらやつて来る。

美代子、受付から離れエレベーターに向かつて歩いていく。

恭子、美代子を見つけて駆け足で近付く。

恭子「先程はどうも。松平麗子の母です」
恭子、笑顔を見せる。

○境家・リビング（夜）

境がキッチンで料理をしている。

風呂上がりの美代子、頭を拭きながらソファに座る。

テーブルの上の「養子縁組」のチラシに目が留まり手に取る。

美代子、ジツとチラシを見つめる。

境「もうすぐできるから、テーブルちよつと拭いてもらえるか」

美代子「ねえ想太くん。この間からの話
なんだけどさ」

境「うん？」

境、美代子を見る。

美代子、チラシをヒラヒラさせる。

○松平家・全景

立派な豪邸。

○同・応接室

大きな絵画が飾ってある。

高級そうな調度品が多く並ぶ。

若林枝里子(45)が境と美代子を部屋に通す。

枝里子「しばらくお待ちくださいませ」

枝里子、一礼して部屋を出ていく。

境と美代子、部屋を見回す。

美代子「なんかすごい部屋なんだけど」

境「あの子、お嬢様だったんだね」

美代子「お母さまは確かに雰囲気ある方だったよね」

恭子と麗子が入ってくる。

恭子「まあまあ、ようこそいらっしやいました。どうもお待たせいたしました」

恭子と麗子、美代子の前に座る。

麗子、表情が暗い。

恭子「来ていただいたということはお話をお受けいただけると？」

美代子「ええ、まあ：」

境「僕たちは養親登録もしてこどもと出会えることを待っている状態です。もし引き取らせてもらえるなら喜んで引き取って育てたいと思います。ただ」

境、麗子を見る。

麗子、境を見て目を逸らす。

境「それを本当に望んでおられるのなら」
恭子「麗子は未婚で、まだ学生の身です。

到底育てられるわけがないのです。この子のワガママで産むことは許しましたが、産んだら施設へ預けることは納得させました」

美代子と境、麗子を見る。

麗子、うつむいている。

恭子「そうは言っても、仮にも私の孫にあたるこどもです。育てられないとはいえ、ずっと施設暮らしというのも可哀想。そこで、直接養子に出すことを考えていたんです」

美代子「それで、私たちに話を？」

恭子、笑顔でうなづく。

恭子「ええ、ええ。麗子の話を聞く限り、あなた方ならこの子の親として申し分ないと確信いたしました。ご迷惑でなければ、ぜひこの子の養親になってやってくください。ほら、麗子も」

恭子、麗子を促す。

麗子「お願いします」

麗子、頭を下げる。

美代子と境、互いに見合う。

美代子「松平さん。あなたが心から望んでくれるなら」

麗子、顔を上げて涙目で微笑む。

麗子「どうせなら境さんがいいです」

美代子、麗子に近付き抱きしめる。

麗子、涙を流しながら美代子を抱き返す。

○大学病院・産婦人科・分娩室

麗子が陣痛に耐えている。

○同・分娩室前

美代子、境、恭子、松平吉宗(51)
が待っている。

○同・分娩室

赤ん坊が生まれる。
医師が赤ん坊を麗子に見せる。
麗子、涙ぐむ。

○同・分娩室前

赤ん坊の泣き声が聞こえる。
立ち上がる恭子と美代子。

○

○同・分娩室

一人でベッドに寝ている麗子。

涙を堪えきれず泣いている。

○同・全景

○同・病院前

高級車が正面に停まっている。

美代子が境竜生(○)を抱いて、境とその隣に立っている。

美代子「ありがとうございます」

美代子と境、頭を下げる。

恭子と松平が車内から会釈する。

恭子「これからはその子：竜生くんね、しっかり育ててあげてね」

境「はい、もちろんです」

恭子「あなた方ならいい親になれるわね」

美代子、後部座席を見る。

麗子が座っている。

麗子、美代子を見て会釈するがすぐ視線を逸らす。

松平「では失礼します」

高級車が走り出す。
美代子と境、頭を下げる。

○ 境家・リビング

美代子が竜生のおむつを替えてい
る。
境、ミルクを用意している。

○ 同・寝室

竜生を抱いて子守唄を歌う美代子。

○ 看護学校・教室

座学の授業。
麗子、真剣に授業を受けている。

○ 境家・リビング

美代子、棚に竜生の写真が入った
写真立てを置く。
壁に竜生の写真が増えている。
境、竜生のハイハイに大喜びでカ

メラを構える。

美代子、駆け寄って産生を呼ぶ。

○看護学校・実習室

注射の練習に取り組む麗子。

○境家・リビング（夜）

境、小さなケーキにロウソクを一本差して火を点ける。

美代子、産生を抱いて歌を歌う。

境が代わりに火を吹き消す。

二人で拍手。

○松平家・麗子の部屋（夜）

レポートを書く麗子。

参考書が山積みになっている。

机の上には生まれた時の産生の写

真。

○境家・玄関（朝）

境(28)が靴を履いて立ち上がる。

美代子(26)、竜生(1)を抱いている。

境「じゃあ行ってきます」

美代子「いつてらっしゃい」

境「竜生、いつてきます」

境、竜生の頬にキスする。

美代子「気を付けてね」

境「うん。いつてきます」

境、美代子にキスして出ていく。

美代子、見送る。

○看護学校・教室(夕)

麗子(22)が帰り支度をしている。

高野彩菜(22)が駆け寄ってくる。

彩菜「ねえ松平さん、今日この後暇？」

麗子「え？」

彩菜「今日合コンあるんだけど、一人足

りなくて。良かったら一緒に行こうよ」

麗子「いいの？」

彩菜「いいのいいの！松平さん美人だし、

むしろ向こうも喜ぶから。ね！」

彩菜、麗子の残りの荷物を鞆に押し込んで麗子に持たせる。

彩菜「レッツゴー」

彩菜、麗子を押しに行く。

○居酒屋前（夕）

車通りの多い道に面した居酒屋。

麗子と彩菜、看護学生が2人立っている。

彩菜「おっそいなあ。ごめんね、みんな」

麗子「ううん、いいよ」

車の急ブレーキの音が響く。

ぶつかる音。

驚いて振り返る麗子達。

遠くに人だかりができています。

麗子「え、何？」

彩菜「事故かなあ」

看護学生A「どうする、行ってみる？」

彩菜「やだよ、これから合コンなのに」

看護学生B「あ、ねえあの人たち？」

男子学生が4人歩いてくる。

彩菜「おそーい！ほら、じゃあ店入ろう。

松平さんも！」

麗子「あ、うん」

麗子、事故を気にしながら店に入る。

○居酒屋前・道路（夜）

全面が大きく凹んだ車が停まっている。

人垣ができています。

堺が血まみれで倒れている。

救急車のサイレンの音が近付いてくる。

○居酒屋内（夜）

盛り上がる彩菜たち。

麗子、チューハイを飲みながら窓の外に目を向ける。

救急車のランプが光っているのが
遠くに見える。

○ 大学病院・全景（夜）

サイレンを鳴らして救急車が入っ
ていく。

○ 同・手術室前（夜）

手術中のランプが点いている。
竜生を抱いた美代子が座っている。
竜生、ご機嫌。

○ 看護学校・教室（朝）

麗子が入ってくる。

彩菜が麗子に気付き手を振る。

彩菜「あつ松平さん！昨日はありがとう！」

麗子「ううん、こちらこそ」

麗子、席に着く。

彩菜が近づいてくる。

彩菜「でも残念だったね？カップルでき

なくて」

麗子「うまくいかないこともあるよ」

麗子、ぎこちない愛想笑い。

彩菜「そう？あ、そういえば昨日店入る前に事故あったでしょ。あれ新聞に載ってたよ。死亡事故だって。怖いねー、やっぱり近付かなくて正解だよ」

麗子「そうだったんだ：」

彩菜「事故現場が近いとかテンション下がるからマジ勘弁って感じだよね」

麗子、愛想笑いで相槌を打ちながら鞆からテキストを取り出す。

タイトルは「救急看護学」

○ 境家・リビング

ソファに座っている美代子。

角に小さな祭壇が作られている。

写真は境のもの。

写真の隣に壊れた腕時計。

美代子、うつむいたまま動かない。

竜生、一人で玩具で遊んでいる。

玄関が開く音がする。

淳美の声「美代子。入るよ」

大崎淳美（ふこ）が入ってくる。

竜生を見て笑顔で抱き上げる。

淳美「竜生ちゃん、おばあちゃんですよ。

こんにちはあ」

淳美、祭壇に近付く。

焼香して手を合わせる。

美代子の隣に座る。

淳美「美代子」

美代子、無反応。

淳美「しっかりしまっし。あんたがいつ

までもそうしとつても、想太君は喜ば

んよ」

竜生がハイハイで淳美と美代子に

近づいてくる。

淳美、竜生を抱き上げる。

淳美「竜生ちゃんのお世話、ちゃんとし

とるんけ？」

美代子「一応」

淳美「：考えたんやけどね。縁組解消したらどう？」

美代子、顔を上げる。

淳美「アンタがそんなんでどうやってこの子を育てるが？無理よ。この家引き払って、その子は返して戻ってきまっし」

美代子「お母さん：本気で言ってるの？」

美代子、産生を淳美から取り上げて強く抱きしめる。

美代子「私に今までの思い出全部捨てるって言うの？想太のことも、産生のことも捨てるって？そんなことできるわけないじゃない！」

淳美「でもアンタねえ：」

美代子「私は大丈夫よ！想太がいない分もちゃんと自分で育てる！産生を幸せにする！約束したんだから！」

淳美「美代子：」

美代子「帰って。私は大丈夫だから」

淳美「わかった。でも、しんどくなつたらすぐに帰つといで。アンタがその子の親なんと一緒に、私もアンタの親なんやさけ」

淳美、童生を撫でると立ち上がる。

淳美、部屋を出ていく。

○同・寝室（夜）

童生が寝ている。

美代子、入ってきて童生を撫でる。

美代子「頑張るからね。一緒に生きていこう」

○松平家・麗子の部屋（夜）

麗子が勉強している。

スマホが鳴る。

見ると彩菜からメッセージ。

「明日合コンなんだけどどう？」

麗子、スマホを取って打つ。

「ごめんね、バイトあるから」

送信してスマホを置く。

ノビをしたところで下腹部に違和

感を覚え擦る。

麗子「そろそろだったっけ」

麗子、立ち上がる。

○同・トイレ前（夜）

麗子、下腹部を摩りながら出てくる。

恭子が通りかかる。

恭子「お腹痛いの？」

麗子「生理なんだけど：なんか痛いの」

恭子「冷やさないようにね。若林に言っ

て毛布でも出してもらおう？」

麗子「ううん、いい」

恭子「お腹は大事にしなさいね。いずれ

跡取りを産まなくてはいけないんだか

ら」

麗子「そう、ね」

麗子、歩き出す。

恭子、その背中をジッと見つめる。

○ 保育園・遊戯室

保育士と園児たちがお遊戯して遊んでいる。

竜生(3)も遊んでいる。

名札に「境竜生」の文字。

○ ドラッグストア・店内

美代子(28)が働いている。

笑顔で接客。

○ 同・店内（夕）

時計が「7時を指している。

美代子「ありがとうございますいましたー」

レジで客に挨拶する美代子。

店長(35)が来る。

店長「境さんおつかれ。あがっていいよ」

美代子「はい！ありがとうございます」

美代子、レジから出てくる。

店長「境さん元気がいいから評判いいよ。

これからもよろしくね」

美代子「ありがとうございます」

店長「正社員の話、考えてくれた？」

美代子「大変嬉しいんですけど、大丈夫

でしょうか。私、まだ子供が小さいか

らあまり遅くまでは：」

店長「考慮するよ。むしろ子育てママさ

んのロールモデルになってほしい」

美代子「じゃあ、ぜひ！」

店長「よかった。詳しくはまた改めてね」

美代子「はい。お疲れ様でした！」

美代子、頭を下げたて出ていく。

○ 保育園・全景（夜）

美代子、自転車に乗ってくる。

○ 同・玄関（夜）

美代子、駆け込む。

美代子「すみません、遅くなりました」

竜生と保育士がくる。

竜生「ままー」

美代子、竜生を抱きしめる。

美代子「ただいま、竜生」

保育士「お疲れさまでした」

美代子「ありがとうございます。すみ

ません、遅くなって」

保育士「いいえ。今日も竜生ちゃん、元

気でしたよ」

竜生「竜生ね、泥団子作ったよ」

美代子「わあ楽しそう。よかったね。じ

ゃあ、ありがとうございます」

保育士「お気をつけて」

美代子、竜生と手を繋いで出ていく。

○住宅街（夜）

竜生を後ろに乗せた自転車を美代子が漕いでいく。

美代子と竜生、歌いながら走る。

○境家・リビング（夜）

美代子と竜生が入ってくる。

竜生、祭壇に駆け寄り手を合わす。

竜生「パパ、ただいま！」

美代子「竜生、手洗っておいで」

竜生「はい」

竜生、走っていく。

美代子、エコバッグから食材を冷

蔵庫に入れる。

冷蔵庫には「節約レシピ」と書か

れた紙が何枚も貼ってある。

○松平家・麗子の部屋（夜）

ベッドに横になっている麗子（24）。

ノックをして枝里子が入ってくる。

枝里子「失礼します。お加減はいかがで

すか」

麗子「お腹痛すぎて動けない」

枝里子「お薬お持ちしました。どうぞ」

麗子、ノロノロと起き上がり薬を
受け取る。

麗子「ありがとう」

枝里子「しんどかったら明日は仕事休んでくださいね」

麗子「でも」

枝里子「無理はいけません。奥様には私から話しますので」

麗子「うん……」

麗子、横になる。

麗子「明日には楽になるかな」

枝里子「楽になってるといいですね」

枝里子、一礼して出ていく。

枝里子「失礼いたします」

麗子「ありがとう」

麗子、布団で丸くなる。

麗子「あ……いたい」

○ 大学病院・分娩室（フラッシュ）

産まれた竜生を抱く麗子

○もとの松平家・麗子の部屋（夜）

麗子「陣痛よりは、マシかな」

麗子、目を閉じる。

○保育園・玄関（朝）

美代子と竜生が入ってくる。

竜生「おはようございます！」

保育士「竜生ちゃん今日も元気だね！」

竜生、靴を履き替えると駆け足で

入っていく。

竜生「いってきまーす！」

美代子「いってらっしゃい」

美代子、手を振って見送る。

○ドラッグストア・店内

美代子、商品を棚に並べる。

痛み止めの棚。

枝里子が近付いてくる。

枝里子「あの、すみません」

美代子、立ち上がる。

美代子「はい」

枝里子「痛み止めの大容量サイズってあります？」

美代子「40錠入った物がありますよ」

美代子、薬を手にとって見せる。

枝里子「あ、こちらじゃなくて：ロキソ

なんとかかっていうお薬は」

美代子「ロキソニンですか。それだと薬

剤師がいる時でないと売れなくて。あ

と、大容量は無いはずですよ」

枝里子「そうなんですか。すぐなくなる

から沢山ほしいんですけど」

美代子「そんなに痛いんですか」

枝里子「あ、私ではないんですけどね。

痛い痛いと言われるもので」

枝里子、顔を寄せて

枝里子「（小声で）生理痛が」

美代子「まあ。そんなに」

枝里子「そうみたい。苦しそうでね、もう可哀想で可哀想で」

美代子「お嬢さん、お辛いでしようねえあまり重いなら一度婦人科にかかられた方がいいですよ？」

枝里子「そうですよねえ。私もそう思ってるんです。ありがとうございます。私もそう思ってます。枝里子、一礼して離れていく。

美代子「お大事に」
美代子、仕事に戻る。

○大学病院・婦人科待合室

麗子と枝里子が座っている。

麗子、苦しそうに下腹部を摩っている。

枝里子「痛いですか」

麗子「昨日よりはマシだけど」

枝里子「何もないといいんですけどね。

今朝、奥様も心配なさってましたよ」
麗子「何かあったら困るもんね。子供産

めなかつたりさ」

枝里子「麗子様ご自身のお体のことです」

麗子「ごめん、ちよつと愚痴」

呼び出し番号を知らせる音が鳴る。

枝里子、立ち上がる。

枝里子「行きましたよう。立てますか」

枝里子、麗子の手を取って立ち上がらせる。

○松平家・食堂（夜）

麗子、恭子（49）、松平（54）が食事をしている。

枝里子、隅に控えている。

恭子「今日病院に行ったんですって？」

松平「どこか悪いのか」

麗子「生理が重くてきついから」

恭子「まだ痛いのに」

麗子「もうずっと生理重いよ」

恭子「嫌ね。それで？お医者様はなんて」

麗子「子宮内膜症だって」

松平「しきゅう：なに？」

麗子「子宮内膜症」

松平「それはなんだ。どうなるんだ？」

麗子「結構ひどいって」

恭子「ひどいとどうなるの。治るの？」

麗子、枝里子を見る。

枝里子、うつむく。

麗子「不妊になる人が多いって。完治させるなら子宮取った方がいいし」

恭子、ナイフを落とす。

松平、ポカンとする。

恭子「なんですって：それって」

麗子「パパもママも。こどもは諦めた方が良さそうよ」

麗子、フォークを置く。

○同・麗子の部屋（夜）

麗子が入ってくる。

机の上の童生の写真に目が行く。
手に取り見つめる。

麗子「あなたただけになっちゃったね」

写真を指で撫でる。

写真に涙が落ちる。

○境家・リビング（夜）

竜生がソファで寝ている。

隣で美代子が家計簿を書いている。

美代子のため息。

赤ペンを取り出し、合計の枠の数字を書く。

美代子「赤字だわ：」

通帳に目をやる。

残高は数十万程度。

美代子「すつくな：」

美代子、ソファに寝そべる。

竜生を見て頭を撫でる。

美代子「仕事増やさなきゃダメかね」

美代子、壁の写真を見る。

境と美代子の写真。

美代子「子育てって大変だね、想太くん」

○ドラッグストア・控室

店長(39)が座っている。

美代子が立っている。

店長「シフトを増やすって言ってもなあ」

美代子「なんとかありませんか」

店長「時間を増やしてもらえないならいいけど。時短のままですこれ以上シフト増やすのは難しいよ」

美代子「はあ……」

店長「延ばせない？」

美代子「あまり長く預けるのは……」

店長「うーん。もう十分君の勤務時間は考慮してあげてるからこれ以上はちよつとなあ……」

美代子「そうですか……すみません」

店長「ごめんね」

美代子、一礼して出ていく。

○大学病院・全景

○同・婦人科病室前

個人病棟に「松平麗子」の文字。

恭子の声「一番いいお部屋をお願いしたから安心してね」

○同・麗子の病室

麗子、ベッドに入っている。

麗子「別に普通の部屋で良かったのに」

恭子「ダメよ。松平の娘が一般病棟なんて恥ずかしいわ」

麗子「友達がたくさん勤めてるのよ。過保護な親だって思われちゃう」

恭子「過保護で何が悪いの。ねえ？若林」

枝里子、笑顔でうなづく。

恭子「しつかり治しましょうね、麗子」

麗子「うん、ありがとう」

恭子「ああそうだ。麗子、竜生くんのこと、覚えてる？」

麗子「忘れるわけじゃないじゃない」

恭子「今あの子は4歳くらいかしら」

麗子「3歳よ」

恭子「3歳か：じゃあ間に合いそうね」

麗子「なんの話？」

恭子「あの子、返してもらったらどう

かしら」

麗子「は？」

枝里子、目を丸くして恭子を見る。

恭子「元々は麗子の子なんだし？あなた
が今後不妊になる可能性があるのだっ
たら、早めに手を打っておいた方がい
いと思うの。まあ父親の血は問題あり
かもしれないけど、母親は麗子なんだ
からちゃんと教育すれば問題は無いと
思うわ。3歳ならまだ覚えてないだろ
うから、今のうちがいいと思うのよ」

麗子「なにそれ」

恭子「竜生くんは松平家の跡取りとして
返してもらって私たちで育てましよう。
いい考えだと思わない？」

麗子、恭子を睨みつける。

麗子「私があの子を妊娠した時、さっさとおろせて言ったわよね。ろくでもない男の血が入った子供なんかいらな
いって。産んでも絶対に育てさせない
って言ったわよね。それが何？私が不
妊になったら戻って来いって？跡取り
にするから仕方なくってこと？どこま
で自分勝手なのよ」

恭子「どうしてそんなに怒るのよ。これからは本当の母親のあなたが育てれば
いいて言ってるんじゃない。あなた
だってあの子のこと忘れたことは無い
んでしょ？」

麗子、唇を噛み恭子を睨みつける。

恭子「これは決定事項だから。連絡はこ
ちらですするわ。あなたはしっかり、体
を治すのよ」

恭子、立ち上がる。

恭子「若林、行きましよう」

恭子が病室を出ていく。

枝里子、麗子を振り返りながら出ていく。

扉が閉まる。

麗子、手で顔を覆う。

○境家・リビング

淳美が祭壇に手を合わせている。

竜生も隣で手を合わせる。

美代子の声「来るんなら先に言ってくれたらいいのに」

美代子、冷蔵庫からお茶を出す。

淳美「な〜ん、ちよっと近くまで来たもんで、ついでに寄っただけや」

美代子「東京に何の用があったっていうのよ」

竜生「ばあばひさしぶり」

淳美「ねー。ママももう少し遊びに来てくれたらいいがにねえ」

美代子「日曜くらいしか休みが無いから

難しいの」

美代子、グラスをテーブルに置く。

淳美、テーブルに着く。

竜生、淳美の隣に座る。

淳美「そんなに働いて、竜生ちゃん、あ

んまり遊びに連れて行ってあげたらん

がじゃないけ？」

淳美、鞆からお菓子を出して竜生に渡す。

淳美「はい、竜生ちゃんどうぞ」

竜生「わーい」

美代子「ありがとうは？」

竜生「ありがとう」

淳美「はいどういたしまして」

美代子「遊びに連れてってあげたいけど

仕事忙しいから」

淳美「パートじゃなかったけ？」

美代子「正社員よ。時短だけど」

淳美「パートみたいなものやろ。そんなんでこの先育てていけるん？」

美代子「うるさいわね。わかつてるわよ。

竜生が入学したら時間増やすわ」

淳美「アンタ、特に資格もないし収入か
って多くないんやろ。一人で竜生ちゃ
ん育てるんも限界あるよ」

美代子「だから何？」

淳美、鞆から見合い写真を出す。

淳美「こっちに帰ってくる気がないんや
ったらせめて再婚しまっし。竜生ちゃ
んごと受け入れてくれる人も絶対おる
さけ」

淳美、美代子に写真を差し出す。

美代子、手は出さない。

淳美「ほら」

美代子「想太くんを忘れられない」

淳美「それはわかる。でもね、本当に竜
生ちゃんのこと、アンタ自身のことを
考えるならそうも言うたられんの」

美代子、うつむいて唇を噛む。

○ドラッグストア・店内

美代子、棚の整理をしている。

枝里子が近付いてくる。

枝里子「あの」

美代子「はい」

枝里子「以前、痛み止めを案内していた

だいて。ありがとうございました」

美代子「ああ、いえそんな。大したこと

では。お嬢さん、その後お加減は」

枝里子「あの：境美代子さん、ですよね」

美代子「ええ、そうですが」

枝里子、微笑む。

○同・控室

店長が事務仕事している。

伸びをして時計を見る。

店長「もう昼か」

無表情の美代子が入ってくる。

店長「おう、お疲れ様」

美代子「お疲れ様です」

店長、美代子の顔を見る。

美代子、フラフラとロッカー
ムを開けて弁当を取り出す。
手元が狂って弁当が床に落ちる。

美代子「あ」

店長「ああ、何やってんだ」

店長、駆け寄って弁当を拾う。

美代子、ボーっとしている。

店長「境さん？ どうした」

美代子「いえ：なんでもないです」

無表情の美代子の頬に涙が流れる。

店長、目を見張る。

○保育園・玄関

保育士と竜生が待っている。

美代子がやってくる。

保育士「あ、ママ来たよ」

竜生「まま！」

竜生、美代子に飛びつく。

美代子、保育士に頭を下げる。

美代子「すみません、急に連絡して」

保育士「いいえ。竜生くん喜んでました

よ。早く帰れるって」

美代子「すみません」

保育士「竜生くん、明日ね」

竜生「さよーなら！」

美代子と竜生、手を繋いで出ていく。

○住宅街

美代子と竜生、手を繋いで歩く。

竜生「今日早いねーお外明るいね」

美代子「そうね」

竜生、歌いながら歩く。

美代子、竜生を見て涙ぐむ。

竜生、気付いて立ち止まる。

竜生「まま、どうしたの。どこか痛いなの？」

美代子「違うの。違うのよ：」

美代子、竜生を抱きしめる。

美代子「竜生、大好きよ。大好き」

竜生「ぼくもまま好き」

竜生、美代子を抱きしめ返す。

○ 大学病院・全景

○ 同・総合玄関

荷物を持った麗子と、恭子が出てくる。

恭子、出てきた看護師を振り返り頭を下げる。

恭子の声「ありがとうございます」

麗子、慌てて真似をする。

看護師の声「お大事に」

看護師、笑顔でお辞儀する。

○ 同・駐車場

高級車が停まっている。

恭子と麗子、乗り込む。

高級車が走り出す。

○車内

麗子、窓の外を見ている。

恭子「境さん来週来るから」

麗子「えっ」

麗子、恭子を見る。

恭子「境さんにお話したらOKしてくれ

たわよ。竜生くんを返すこと」

麗子「そうなの：？」

恭子「これで松平家の未来もあなたの未

来も安泰ね。あなたも、竜生くんを受

け入れる用意しておきなさい」

麗子「竜生が帰ってくる：」

○境家・寝室（夜）

竜生が眠っている。

美代子、竜生を撫でながら泣く。

○松平家・麗子の部屋（夜）

麗子、竜生の写真を見ている。

枝里子、麗子の服を片付けている。

麗子「ねえ若林」

枝里子「はい」

麗子「竜生くんは私を受け入れてくれるかな。私、お母さんになれるかな」

枝里子「麗子様が愛情を注げばきっと」

麗子、顔を上げ窓の外の月を見る。

○松平家・全景

枝里子の声「ようこそいらっしやいました。こちらへどうぞ」

○同・応接室

枝里子、美代子と竜生を連れて入ってくる。

美代子にソファに座るよう促す。

枝里子、竜生の前に膝をつく。

枝里子「ママは大事なお話があるから、おばちゃんとお隣で遊んでいようか」

竜生「うん」

枝里子、竜生の手を取り出ていく。

美代子、竜生を振り返る。
 竜生、手を振って出ていく。
 反対のドアから恭子と麗子が入っ
 てくる。

恭子「どうもお待たせいたしました！」
 美代子、立ち上がって頭を下げる。

○同・応接室の隣部屋

玩具でいっぱいの子部屋。
 竜生、遊び始める。
 枝里子、隣の壁の小窓を見る。
 向こう側は応接室。

○同・応接室

美代子の前に「養子離縁届」が出
 される。
 美代子、恭子を見る。
 恭子、笑顔で頷く。
 美代子、ペンを執る。
 美代子、署名と捺印を終える。

書き終えた書類を差し出す。

恭子、手早く書類を受け取る。

恭子「はい確かに！それじゃあ早速！」

立ち上がる恭子を麗子が止める。

麗子「待って」

麗子、書類を恭子の手から取り上げる。

麗子「しばらく話をさせて」

恭子「麗子」

麗子「お願い」

恭子、溜息を付いて

恭子「じゃあ、終わったら持ってきてね」

恭子、部屋を出ていく。

麗子「：今になってこちらの我がままで

あなたを振り回すことになったこと、
まず謝らせてください」

麗子、頭を下げる。

麗子「本当に、いいんですね？」

美代子、うなずいて小窓を見る。

○同・応接室の隣部屋
遊んでいる竜生。

○同・応接室

竜生を小窓越しに見つめる美代子。

美代子「きっとこの方があの子のために
もいいはずです」

麗子、美代子を見つめている。

美代子、ぎこちない笑顔。

美代子「私と松平さんを見たら一目瞭然
じやないですか。私じゃあの子の将来
に我慢を強いることになる。大学も満
足に行かせてやれないんです」

麗子、美代子を見つめる。

美代子「それに：誰だって、本当の両親
の元で暮らすのが一番なんです」

麗子「境さん：いえ、美代子さん」

麗子、体を乗り出し、細くキレイ
な手で美代子のカサカサした手を
取る。

麗子「聞きました。ご主人、亡くなられたとか」

美代子、うなづく。

麗子「お一人で大変だったでしょう。それでもあの子があんなに元気なのは美代子さんのおかげです」

美代子「私こそ、あの子がいてくれたから頑張れたようなもので」

美代子、笑顔を作ろうとするが叶わずうつむく。

麗子、美代子の手を撫でる。

麗子「いつでも遊びに来てくださいと言いたいところですけれど」

美代子「ええ、わかっています」

美代子、小窓を見る。

竜生は楽しそうに笑っている。

美代子、鞆を持って立ち上がる。

美代子「今のうちに帰ります」

麗子「何も言わないでいいんですか？」

美代子「会えば離れがたくなります」

美代子、足早に小窓の前を通り過ぎ部屋を出ていく。
窓の向こうの竜生、気付いたようにこちらを見ている。

○同・応接室の隣部屋

竜生、立ち上がって小窓に近づく。

枝里子「竜生くん？ どうしたのかな」

竜生「まま、どこ？」

竜生、近付いてきた絵里子の隣をすり抜けて入口のドアへ向かう。

枝里子「竜生くん、ママはまだお話の最

中だから。おばちゃんを待ってよう？」

竜生「ううん、ままいない。ぼく帰る」

竜生、ドアを叩く。

竜生「ままー！ まま、ぼくも帰るー！」

枝里子、慌ててドアから離そうとするが竜生は離れない。

○同・応接室前

隣の部屋からドアを叩く音がする。

美代子、泣きそうな顔で見る。

麗子、美代子の背中を押す。

麗子「竜生くんは若林が見てますから、今のうちにこちらから」

麗子と美代子、部屋から出ていく。

○同・応接室の隣部屋

竜生、ドアにしがみついている。

竜生「ままー？」

枝里子「竜生くん、いい子だから……」

竜生「ままー！」

竜生、振り返って部屋の中へ走る。

枝里子、慌てて追いかける。

竜生、大きい両開き窓に駆け寄る

と踏み台を持ってきてよじ登る。

枝里子「危ないよ、竜生くん！そっちに

ママはいないから……」

竜生「まま、ままどこー？ままー」

竜生、窓の向こうを見ている。

竜生「あ、まま！」

竜生、窓を開けて乗り出す。

○同・玄関前

美代子が玄関から出てくる。

暗い表情で門に向かう。

竜生の声「まま！」

美代子、驚いて振り返る。

二階の窓が開いて竜生が乗り出し

て美代子を見ている。

枝里子が必死で押さえている。

竜生、美代子を見て手を伸ばす。

竜生「まま、待って！ぼくも帰る！おい

てかないで！」

枝里子「竜生くん危ないから降りようね」

竜生「いや！まま、待って！待って！」

美代子、泣きそうになるのを必死

で堪えて竜生を見る。

美代子「竜生、これからはそこがあなた

のお家なの。元気だね」

竜生、一気に泣き出す。

竜生「やだ！なんで！まま行かないで！

おいてかないで！」

枝里子、竜生を窓から引き離して閉める。

窓の向こうで竜生が泣き叫んでいるが声は聞こえない。

美代子、泣きそうな顔。

竜生が手を伸ばして泣いている。

美代子、涙が溢れ出す。

麗子が枝里子の隣に現れ、美代子に向かって深々と頭を下げる。

美代子、うなずき窓に背を向けると走り出す。

枝里子の手から逃れた竜生、再び窓を開けて乗り出す。

麗子と枝里子、二人で窓から退か

そうとするが暴れて抵抗する竜生。

枝里子「危ないからやめなさい！」

竜生「まま！行かないで、まま！まま！」

麗子「竜生くん、ままは私よ。あなたは私が産んだのよ」

竜生「やだ！ままじゃない！ままあ！」

美代子の足が止まる。

うつむいている美代子。

美代子「：ごめんなさい」

美代子の足が走り出す。

○同・応接室の隣部屋

開き窓を閉めて鍵をかける枝里子。

窓にしがみついたまま大声で泣い

ている竜生。

麗子「竜生くん、ほらこっちにおいで」

竜生「やだ！ままあ！ままあ！」

麗子が手を伸ばす。

竜生、手を振り払って泣き叫ぶ。

突然、扉が開く。

驚いて振り返る一同。

竜生の表情がどんどん笑顔になる。

竜生「まま！」

肩で息をしながら美代子が立っている。

竜生、美代子に駆け寄る。

美代子、竜生を受け止めて強く抱きしめる。

美代子「竜生、竜生：」

麗子「美代子さん：」

美代子、麗子に向かって立つと深々と頭を下げる。

美代子「松平さん、ごめんなさい。今回の件、お断りさせていただきます」

麗子、美代子を見つめている。

美代子「私のわがままかもしれませんが

：もう私は、この子がいない人生に耐

えられそうにありません」

美代子、竜生の頭を撫でる。

美代子「竜生の将来を思うなら、こちらで暮らすのが一番だと思います。でも：今のこの子を泣かせたくないので、ごめんなさい」

竜生「まま」

美代子、膝をついて竜生に顔を寄せ
せる。

竜生、美代子の頭を撫でる。

竜生「泣かないで、まま。まま大好きよ」
美代子「ありがとう、竜生」

美代子、竜生を抱きしめる。

麗子、それを見て苦笑する。

麗子「これはどうしようもありませんね」

枝里子、心配そうに麗子を見る。

美代子も麗子を見上げる。

麗子「美代子さん。竜生くんが大切で、
泣かせたくないのは私も同じです。母
親ですもの」

麗子、膝をつき竜生と視線を合わ
せる。

麗子「竜生くん、泣かせちゃってごめん
ね。許してくれる？」

竜生、小さくうなづく。

麗子、微笑み竜生の頭を撫でる。

麗子「竜生は私が産んだたった一人の子であることは変わりません。将来的にはこの家を跡を継いでもらいたいと思っ
ています。けれど」

麗子、美代子を見て微笑む。

麗子「あまり事を急ぎすぎて、竜生に嫌われたら元も子ありませんから」

美代子「それじゃあ」

麗子、ゆっくりとうなずく。

麗子「竜生が大人になるまで、どうぞよろしく願います」

美代子「松平さん」

枝里子「よろしいのですか。奥様が」

麗子「いいんです。母親の私が決めること
とです」

美代子「ありがとう：ありがとうご
ざいます」

美代子、竜生を抱きしめる。

竜生「ま、ま、苦しい」

麗子、美代子と竜生を見て悲し気

に微笑む。

枝里子、麗子を見つめる。

○同・玄関前

美代子と竜生が手を繋いで出てくる。

○同・応接室

窓から麗子と枝里子が見ている。その様子を見ている。

枝里子「よくご決断なさいましたね」

麗子「あんな姿見せられちゃね」

麗子、笑うがすぐに目を伏せる。

麗子「最初から私が育てられたらああしてるのは私だったのかな」

○同・玄関前

竜生が振り返り麗子に向かって手を振る。

○同・応接室

竜生に気付き、麗子も笑顔を作つて手を振り返す。

麗子、涙を拭つて窓に背を向ける。

麗子「さ。お母さんに説明しないとね。

初めての反抗だわ。上手にできるかな」

枝里子「微力ながらお手伝いいたします」

麗子「共犯ね」

麗子、部屋を出ていく。

了